



強みを伸ばす

取締役常務執行役員
高橋 幸三

1月の新年互礼会では、今年は2020年という節目の年で、最大のイベントは、国内では8月の東京オリンピック・パラリンピック、海外では11月のアメリカ大統領選挙と中締め挨拶をさせて頂いた。日本でのオリンピックは、56年振りの開催で大いに盛り上がり、大統領選挙は、アメリカ経済が好調な事もあり現職トランプ氏優位と想定していた。

ところが、である。

新型コロナウイルスが、2月のダイヤモンド・プリンセス号、3月から日本国内でも猛威を振るい、今や「新しい生活様式」で「行動変容」を余儀なくされ、「社会的距離」を保つように求められている。経済面でも「外出自粛」（海外では「経済封鎖」）により一時的に需要が喪失した影響により、大きく世界経済が落ち込み、2008年のリーマンショックを超えて、1929年の世界大恐慌に匹敵する不況になるのではないかとされている。上記のイベントにおいても、オリンピックは2021年夏へ延期（開催を危ぶむ声もあるが）、大統領選挙はトランプ氏のコロナ対策での失策も要因で、足元（7月時点）で10ポイント以上バイデン氏に支持率を引き離される状況である。

この半年でまさに様変わりとなり、感染拡大が続く中で、少なくとも有効なワクチンや治療薬が出来るまでは、今後も極めて不透明な世の中になりそうである。「不要不急」や「三密（密閉・密集・密接）」を避ける行動が当面要求されるため、特にサービス業での下押し圧力となり、経済面で完全に元に戻るのには、暫く時間がかかるであろう。

このような中で、当社としては、コロナ対応で変えるべきものと変えないものを峻別し、強みを伸ばす事が重要だと思われる。

ウィズコロナの時代では、引き続き感染症予防対策（マスク着用、手洗い・うがいの励行、発熱等体調不良時は自宅待機他）を実行し、在宅勤務やウェブ会議をリアルな出社や対面会議と併用する、多人数が集まる行事は中止し分散化する事などが求められる。従い、人・物・金共に多少の効率性を犠牲にして、リスクを考慮したある程度の冗長性を持たざるを得ないと考える。

一方で、お客様や関係先のご理解も頂き、日本製鉄・Ovakoとの3社連携でのシナジーを一層拡大し、近時拡大してきたグローバル展開での成果を上げる事、また、中長期的には、先々のニーズを踏まえた研究開発投資、収益改善・老朽更新等の設備投資、一定規模の採用等の人材投資を実行する事は変えてはいけないものだと思う。

また、当社の強みである特殊鋼・素形材における新商品開発力、品質技術力、高潔度鋼製造実力や本号で特集している3Dプリンティング用の高品位粉末製造技術に益々磨きをかけて、フットワーク良くお客様のお役に立つよう強みを伸ばす事が不透明な時代にも求められると思われる。

今後も、皆様方の一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。